

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年1月29日

上場会社名 SREホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 2980 URL https://sre-group.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役 社長 兼 CEO (氏名) 西山 和良
問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 CFO 兼 コーポレート戦略推進担当 (氏名) 益子 治 TEL 03-6274-6550
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績 (2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	12,797	25.3	1,510	41.5	1,393	44.9	932	17.8
2023年3月期第3四半期	10,210	38.8	1,067	9.2	962	1.6	791	23.6

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 977百万円 (18.9%) 2023年3月期第3四半期 822百万円 (28.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	57.64	57.00
2023年3月期第3四半期	49.02	48.60

(注) 2023年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	26,946	12,381	44.5
2023年3月期	21,956	11,316	50.1

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 12,002百万円 2023年3月期 10,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年3月期	-	0.00	-	-	-
2024年3月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,300	20.3	2,150	27.5	2,000	29.8	1,430	24.5	88.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	16,188,595株	2023年3月期	16,160,015株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	384株	2023年3月期	297株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	16,174,912株	2023年3月期3Q	16,142,143株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

2022年7月29日に行われたDORIRU株式会社との企業結合について、前第3四半期連結累計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前第3四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「今の先鋭が10年後の当たり前を造る A DECADE AHEAD」をミッションに掲げ、大きく2つの事業を展開してまいりました。1つ目の事業は、不動産/金融業界からIT/ヘルスケア領域まで様々な業界のDXに向けて、機械学習等のテクノロジーを活用したモジュールをベースに、パッケージ型クラウドツールやテラーメイド型アルゴリズムを提供する「AIクラウド&コンサルティング」事業であります。2つ目の事業は、お客様への確かな価値提供とテクノロジーの積極活用の両立を目指すアセットマネジメント、売買仲介コンサルティング、デベロップメント/インベストメント事業を展開する「ライフ&プロパティソリューション」事業であります。

実業（リアルビジネス）である不動産や金融、IT/ヘルスケア事業を自ら手掛け、業務上の非効率や課題に直面することで、機械学習等の高度なテクノロジーの活用の可能性を見出し、当社グループの内部オペレーションにそのテクノロジーを取り込み、競争力・効率性の改善を図っております。同時に、リアルビジネスのテック化により効果が検証された業務推進・効率化ツールは、当社自身がユーザーとして使い勝手をフィードバックすることで実務有用性を磨き込み、同業他社のお客様に提供しております。加えて、ツールのベースとなるモジュールを活かすことで、差異化されたコンサルティングを幅広い産業のお客様にご提供するビジネスモデルを構築しております。

実業（リアルビジネス）を手掛けることが、実務有用性の高いAIソリューション・クラウドツールの顧客への提供に密接かつ効果的に機能しており、この「リアルビジネスを内包したテックプロバイダー」という独自の顧客提供価値の追求が、様々な業界のDXや事業拡大に貢献しております。

当社グループが手掛けるAIクラウド&コンサルティング事業の業務環境をみれば、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進む一方で、専門人材不足などの課題が深刻化しております。そのため、省人化や利益拡大を見据えた取り組みをテクノロジーの活用を通じて進める業界横断的なDX気運の高止まりが随所にみられ、実務有用性の高いDXソリューションを提供する当社事業においても追い風となっております。ライフ&プロパティソリューション事業の業務環境をみれば、様々なアセット種別に対する投資ニーズの高まりが引き続き見られます。一方、金利動向の不透明感が継続していますが、新築マンション価格上昇により中古マンションへの関心が高まったことで、首都圏の中古マンションの売買成約件数が昨年と比較して持ち直しの動きがみられます。

このような業務環境の下、当社グループは従来の不動産領域に加えて、金融やIT/ヘルスケア領域においても事業成長を着実に進捗させ、その他産業に向けても自社の持つAIモジュールを活かしたDXソリューションを提供してまいりました。具体的には、不動産領域において当社グループ独自の一次データを学習させた生成AIを組込んだ業界初となる査定組込型AIチャットボットのプロトタイプを開発し、またヘルスケア領域においても集患/ナーチャリング等のクリニック経営課題に対応したDXソリューションのプロトタイプ開発を行い、収益確保とプロダクトフィードバック蓄積を着実に進捗させました。加えて、霞ヶ関キャピタルやロイヤルホールディングス、双日などの大手企業とのソリューション/プラットフォームサービスの共同開発を物流/飲食領域において進めており、「リアルメテクノロジー」の横展開を着実に拡大しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、クラウドソリューション（CS）・アナリティクス&トランスフォーム（A&T）ともに顧客獲得が着実に進み、ARR（アニュアルリカーリングレベニュー）を積み上げた他、アセットマネジメント&コンサルティング・スマートプロパティも計画どおりに進捗したことで、売上高12,797,783千円（前年同期比2,587,420千円増（25.3%増））、営業利益1,510,459千円（前年同期比442,626千円増（41.5%増））、経常利益1,393,667千円（前年同期比431,560千円増（44.9%増））、親会社株主に帰属する四半期純利益932,351千円（前年同期比141,085千円増（17.8%増））となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分及び名称を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

<AIクラウド&コンサルティングセグメント>

CS(不動産価格推定エンジンなどのディープラーニング技術を核とするパッケージ化されたAIを用いたクラウドサービス)は、開発/販売面の体制強化を進め、顧客基盤の拡大とともにストック収入を着実に積み上げ、解約率も非常に低い水準を維持してまいりました。また、当第2四半期にプロトタイプ開発した不動産分野特化型のAIチャットボットおよびクリニックDXソリューションのテストマーケティングが進捗しております。これら新規ソリューションによるARRの更なる積み上げを図るため、引き続き社内外での効果検証を通じて磨き込みを重ねると同時に、新機能の開発/実装の検討や議論を行う等、外販を見据えた取り組みを進めております。

A&T(幅広い業界におけるマーケティング活動、営業活動といった顧客企業の様々な経営課題に対して、将来予測分析ツールを用いた解決策若しくはシステムの提供又は共同ビジネス開発を行うサービス)は、様々な産業知見を持つコンサルタント・データサイエンティストの参画に加えて、当社独自のAIモジュール等を活かして差異化されたコンサルティングの提供により、霞ヶ関キャピタルやロイヤルホールディングス、双日などの業界大手企業とのソリューション/プラットフォームサービスの共同開発案件を受注できたことから、新規クラウドソリューションの仕込みが進捗しました。さらに、一部ロイヤルカスタマーのリポート案件獲得を拡大し、着実に事業を拡大させてまいりました。

その結果、CS・A&Tともに獲得数が着実に伸長し、ARRを積み上げたことで、当第3四半期連結累計期間におけるAIクラウド&コンサルティングセグメントの売上高は3,456,535千円(前年同期比1,346,306千円増(63.8%増))、セグメント利益は1,221,242千円(前年同期比342,308千円増(38.9%増))となっております。

<ライフ&プロパティソリューションセグメント>

当社テクノロジーを活用したアセットマネジメントや売買仲介コンサルティングを提供するとともに、スマートプロパティとして、IoT技術やESG対応を施したマンション/オフィス/ショッピングセンター/ホテル/シニア関連施設等の開発・投資及び投資家向けの販売を計画に沿って実施しております。また、アセットマネジメント事業の拡大に向けて、当社において開発した物件のファンドに対する継続的な売却及び市場からの外部調達を行い、棚卸資産を過剰に保有することなく収益性に優れたリカーリングフィーを積み上げる積層型ビジネスモデルへの転換を進めております。当社グループは、これらの事業においてテクノロジーを活用したDX化を推進するとともに、その中で生まれた気づきを幅広いお客様に提供するAIソリューションに反映しております。

その結果、アセットマネジメント&コンサルティング・スマートプロパティともに計画どおり進捗したことで、当第3四半期連結累計期間におけるライフ&プロパティソリューションセグメントの売上高は9,944,163千円(前年同期比1,343,317千円増(15.6%増))、セグメント利益は569,715千円(前年同期比256,967千円増(82.2%増))となっております。

<その他セグメント>

本セグメントでは、中長期的なサステナブルグロースに向けてヘルスケアDX等の新規プロダクト開発投資を行っており、主にプロトタイプ開発や人材獲得等を進めております。また、プロダクト開発に向けてヘルスケア事業を手掛け、「リアルビジネスを内包した実務有用性の高いテクノロジー」の創出に向けた取り組みを加速しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他セグメントの売上高は、ヘルスケア事業の事業運営により53,127千円、セグメント損失は新規プロダクト開発投資により137,444千円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ4,989,752千円増加し、26,946,182千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より4,990,620千円増加し、23,601,951千円となりました。これは主に現金及び預金が502,708千円、棚卸資産が4,569,349千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末より37,842千円増加し、3,331,327千円となりました。これは主に投資その他の資産が54,198千円減少した一方、ソフトウェアが38,365千円、のれんが39,883千円増加したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末より38,711千円減少し、12,903千円となりました。これは株式交付費が38,711千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,924,807千円増加し、14,564,974千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より1,429,241千円減少し、4,533,477千円となりました。これは主に買掛金が170,922千円増加した一方、短期借入金が1,772,757千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より5,354,048千円増加し、10,031,496千円となりました。これは主に長期借入金が増加したことに伴うものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,064,944千円増加し、12,381,207千円となりました。これは主に、新株予約権の行使及び新株発行により、資本金が36,227千円、資本剰余金が36,227千円増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、利益剰余金が932,847千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は44.5%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月10日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,837,535	4,340,243
売掛金及び契約資産	636,267	889,521
営業出資金	1,395,931	1,049,052
棚卸資産	12,200,552	16,769,901
その他	542,240	553,686
貸倒引当金	△1,196	△453
流動資産合計	18,611,330	23,601,951
固定資産		
有形固定資産	686,184	704,456
無形固定資産		
ソフトウェア	697,434	735,800
のれん	726,372	766,256
その他	15,853	11,373
無形固定資産合計	1,439,661	1,513,430
投資その他の資産	1,167,638	1,113,440
固定資産合計	3,293,484	3,331,327
繰延資産		
株式交付費	51,615	12,903
繰延資産合計	51,615	12,903
資産合計	21,956,430	26,946,182
負債の部		
流動負債		
買掛金	94,322	265,244
短期借入金	4,281,440	2,508,683
未払金	243,431	306,890
未払費用	557,008	668,830
未払法人税等	324,588	255,531
賞与引当金	177,184	96,729
その他	284,743	431,568
流動負債合計	5,962,719	4,533,477
固定負債		
長期借入金	4,389,671	9,730,335
退職給付に係る負債	66,782	48,984
その他	220,994	252,177
固定負債合計	4,677,447	10,031,496
負債合計	10,640,167	14,564,974
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,147,654	4,183,882
資本剰余金	4,147,654	4,183,882
利益剰余金	2,702,637	3,635,485
自己株式	△1,733	△2,026
株主資本合計	10,996,213	12,001,224
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△989	1,734
その他の包括利益累計額合計	△989	1,734
新株予約権	99,226	113,691
非支配株主持分	221,811	264,557
純資産合計	11,316,263	12,381,207
負債純資産合計	21,956,430	26,946,182

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	10,210,363	12,797,783
売上原価	6,322,391	7,557,151
売上総利益	3,887,971	5,240,632
販売費及び一般管理費	2,820,138	3,730,173
営業利益	1,067,832	1,510,459
営業外収益		
受取利息	4	7
受取配当金	363	323
持分法による投資利益	940	—
受取保険金	3,418	272
その他	394	1,300
営業外収益合計	5,120	1,905
営業外費用		
支払利息	65,766	61,288
持分法による投資損失	—	8,316
株式交付費	38,729	38,711
その他	6,349	10,380
営業外費用合計	110,845	118,696
経常利益	962,107	1,393,667
特別利益		
段階取得に係る差益	280,841	—
特別利益合計	280,841	—
特別損失		
固定資産売却損	—	9,139
固定資産除却損	63,851	—
オフィス移転関連損失	104,266	—
特別損失合計	168,118	9,139
税金等調整前四半期純利益	1,074,829	1,384,528
法人税、住民税及び事業税	303,507	410,351
法人税等調整額	△50,085	△920
法人税等合計	253,422	409,431
四半期純利益	821,406	975,097
非支配株主に帰属する四半期純利益	30,140	42,745
親会社株主に帰属する四半期純利益	791,266	932,351

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	821,406	975,097
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	767	2,724
その他の包括利益合計	767	2,724
四半期包括利益	822,173	977,821
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	792,033	935,075
非支配株主に係る四半期包括利益	30,140	42,745

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2.
	AIクラウド& コンサルティ ング	ライフ&プロ パティソリュ ーション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,641,749	8,568,613	—	10,210,363	—	10,210,363
セグメント間の内部 売上高又は振替高	468,479	32,232	—	500,711	△500,711	—
計	2,110,229	8,600,845	—	10,711,075	△500,711	10,210,363
セグメント利益	878,934	312,747	—	1,191,681	△123,848	1,067,832

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△123,848千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2.
	AIクラウド& コンサルティ ング	ライフ&プロ パティソリュ ーション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,802,021	9,942,634	53,127	12,797,783	—	12,797,783
セグメント間の内部 売上高又は振替高	654,513	1,528	—	656,042	△656,042	—
計	3,456,535	9,944,163	53,127	13,453,826	△656,042	12,797,783
セグメント利益又は損失 (△)	1,221,242	569,715	△137,444	1,653,513	△143,054	1,510,459

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」△143,054千円は、セグメント間取引消去を記載してあり
ます。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理が確定しており、前第3四半期連結
累計期間のセグメント情報は、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反
映された後の金額により開示しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、隣接領域における新規事業開発を各セグメントから切り離し、既存事業と新規事業開発の解像度を向上させることを企図し、報告セグメントを従来の「AIクラウド&コンサルティング事業」及び「不動産テック事業」の2区分から、新たに「その他事業」を追加した3区分に変更しております。

また、第1四半期連結会計期間より、組織の名称変更に伴い、従来「不動産テック事業」としていた報告セグメントの名称を、「ライフ&プロパティソリューション事業」に変更しております。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分及び名称に基づき作成したものを開示しております。